


教育事業（青少年教育指導者等の養成及び資質の向上）

事業名	自然体験活動指導者スキルアップセミナー 自然体験で使える教育手法講座 ～「わかる」ことよりも「感じる」ことを！～	
実施期間	平成23年5月10日（火）～12日（木）	
担当者	企画指導専門職 北岡 哲治	

I 事業の趣旨

青少年の自然体験活動に関わる指導者を対象に、指導者としての資質能力の向上と指導者相互の交流を図ることにより、青少年教育における自然体験活動の充実を図る。

II 事業の概要

1 事業の目的

現在、自然体験活動指導者として活動している方に、即使える教育手法講座を開設し、安全管理、プログラムの企画、体験学習法、野外活動におけるロープワーク、炊飯指導等の実技等で、指導者のブラッシュアップを目指す。

2 参加対象及び募集人員

青少年の自然体験活動に関わる指導者。
30名程度

3 参加状況 16名

県立青少年の家職員	7名
県教育庁行政担当職員	1名
民間施設職員	5名
ボランティア（学生）	3名

4 実施上の留意事項

(1) 参加する指導者の年齢や実態に応じ、プログラム内容を、講師と相談の上、柔軟に対応する。

(2) 参加者相互の情報交換の場を設定し、今後の活動に活かせるよう日程を工夫する。

5 活動の様子

1日目<5月10日（火）>

(1) 「自然体験活動の安全管理」（講義）

講師：和田太志 氏（琉球大学特命研究員）



《安全について熱く語る和田講師》



《参加者の1人が実際椅子に立ち、安全について、ディスカッションする講師と参加者》

(2)「自然体験活動プログラムの企画」(講義)

講師：宮里 勉 (沖縄県キャンプ協会理事)



《企画のポイントについての講義》

(3)「自然体験活動プログラムの企画」

(講義・演習)

講師：宮里 勉 氏(沖縄県キャンプ協会理事)

講師：和田太志 氏(琉球大学特命研究員)

・午後からの講義に引き続き、講師の先生方には夜の講義・演習もお願いした。

各グループ毎に実際にプログラムの企画を行い、発表してもらい、講師による指導助言を頂いた。



《企画作成についての講義》



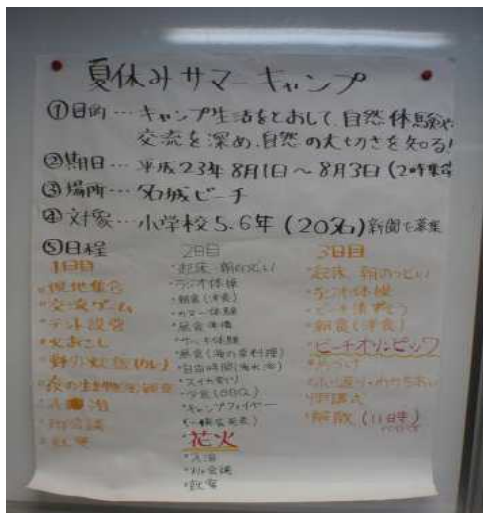
《演習で各グループ毎に企画会議を行っている様子①》



《演習で各グループ毎に企画会議を行っている全体の様子②》



《グループによる発表風景》



《演習で企画した夏休みサマーキャンプ》

2日目<5月11日(水)>

- (4) 「体験活動法とは」(講義)
- 「体験学習の指導法」(実技)
- 「ふりかえりの手法」(実技)

講師：鎌田 実氏

(プロダクトアウト・インチャージ・パソトラーナ)

鎌田晴美氏

(プロダクトアウト・インチャージ・パソトラーナ)

- ・午前9時から、講義。そのあと午前10時～午後10時迄実技。(終日、体験学習法)



《2日目の研修終了後(22時10分)、講師とともに集合写真》

3日目<5月12日(木)>

- (5) 野外活動についての実技
- 「ロープワーク」
- 「火熾し」
- 「野外炊飯の指導法」
- 「ビバークの方法」

講師：大城 敏氏(パドリングガイド漕艇店代表)

- ・午前9時から、野外活動ですぐ使える実技を4項目研修。
- ・午前中は、一人1本ずつロープを持ち、各種ロープワークの技術を習得する。
- ・正午前から、「火熾し」、昼食は簡単にできるパスタと目玉焼き。昼食後、午前中のロープワークの応用で、簡易テントを作成し、ビバークの実際。



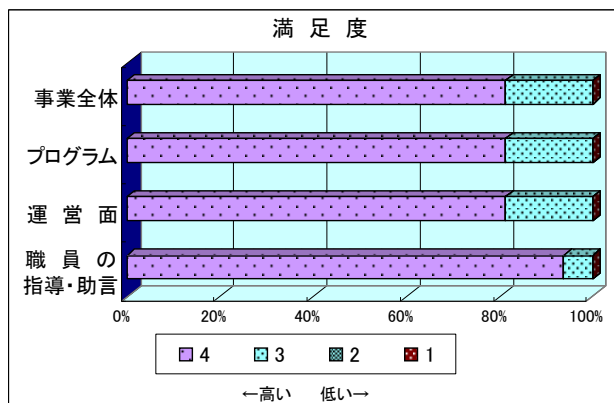
《講師を見本にロープワークする参加者》



《火熾しについて説明する講師と参加者》

6 アンケートの結果

(1) 満足度



(2) 参加者の声

〈良かった点〉

- 自然体験活動指導者のスキルアップにマッチしていて、良かったです。
- プログラムごとに専門の方が指導してくれて、内容がわかりやすかったです。
- 幅広い年代の参加者がいらっしゃいましたが、いろんな事を体験し学ぶことができ良かったです。
- 学びの場という雰囲気すごくあって、積極的に学びました。
- 充実した内容の2泊3日だったと思います。今日学んだ事を生かし、職場の仲間にも伝え、利用者にも良いプログラムを提供できると思います。3日間ありがとうございました。
- 自分自身で振り返り、少しずつ実践を通して身につけていきたい。技（自然体験のスキル全般）が満載で楽しかったです。無人島キャンプも都合があれば参加したいと思います。

〈改善すべき点〉

- ▲台風のため、渡嘉敷へ行けず、国立沖縄青少年交流の家で出来なかった事が残念でした。
- ▲満足だが、時間が足りなかった。もう少し、プログラムの一つの時間を延ばしてほしいです。
- ▲全体的には良かったのですが、野外料理をもっと知りたかったです。

III 成果と課題

1 事業の成果

- (1) 参加者の人数は少なかったが、参加者の研修意欲が高く、また、講師の先生方もすばらしく、内容の充実した3日間であった。
- (2) 県立・民間・ボランティア等の指導者相互の交流が図られ、人的ネットワークが構築された。
- (3) 今回「体験学習の指導法」を取り入れて実施したが、参加者が興味・関心を持って熱心に参加していた。

2 今後の課題

- (1) 想定外の5月上旬の台風襲来で、会場を急遽県立糸満青少年の家で開催したため、糸満の職員には大変お世話になった。予備の施設等の事前確保の必要性を痛感した。
- (2) 台風時の判断のタイミング、会議の持ち方について、きちんと整理しておく必要性を痛感した。
- (3) 平日開催のため、参加申し込みが少なかった。開催時期等の再検討と、県立の各施設職員や行政関係職員が多く参加できるよう連携を図る必要がある。

IV おわりに

今回、5月上旬の台風襲来のため研修日程・場所を急遽変更して、渡嘉敷から、糸満へ場所を移して実施した。

研修内容については、専門家講師による実践的な講義・実技・演習等を実施することにより、参加者が積極的に受講したため内容の濃い研修となり、参加者の満足度も高かった。

国立、県立、民間、ボランティア、行政担当職員と自然体験活動に関係する人たちと人的ネットワークができてよかった。今後とも、開始時期を検討し、継続して実施していきたい。